

日本発ドイツ便り : Kirsche

Kirsche (キルシェ : サクランボ) はドイツでは初夏の果物です。Erdbeere (エアドベレー : いちご) のシーズンが終わるころにやってくるのが、Kirsche と Aprikose (アプリコーゼ : アプリコット、杏)。サクランボのシーズンは日本よりちょっと遅くて、6月から7月下旬くらいまで。旬のときに旬のものをせっせと食べるのがドイツ流。(安くておいしいので、合理的ですね)

春から夏は Spargel (シュパーゲル : アスパラ) → Erdbeere + ベリー達 → Kirsche が、市場や街の中の屋台の主演です。



こんな感じの山盛りで売られています。市場のお姉さんに「甘い？」って聞いてみると、「まあ食べてみて。」と1粒くれました。味が濃くて、甘くて大きく香りも強くて、実もしっかりしているので、食べ応えありです。素直に「美味しい！」と言うと、「でしょう？種はその辺にただ捨てといてね～」とのこと。もちろん購入。丁度お隣にあったアプリコットもついでに購入。ドイツでは、そのまま(皮をむかずに)かじります。電車の中とかで食べている人も見かけます。

以前ウィーンの地下鉄の中で、すぐ前の座席の人が、この黄色い丸い果物を食べていて、「何の果物だろう？」と見ていたら、欲しいと勘違いされたのか、「食べる？」と一個もらったことがあります。その時、なんていう名前の果物かと質問したら Marille (マリーレ) だと教えてもらいましたが、辞書にもなかなか出ていなくて「杏みたいなものかな？」と思っていたらその通り。要は言葉の問題で、南部ドイツ語(バイエルンとかオーストリア)では Aprikose のことを、Marille というそうです。

少し脱線しましたが、ドイツのサクランボ。大きく分けて2種類あります。Süßkirsche (ズースキルシェ) と Sauerkirsche (ザウアーキルシェ) Süß=甘い、Sauer=すっぱい、とその通りの味なので、Süßkirsche は生で食べて、Sauerkirsche はジャムやコンポートにする。という使い方をするようです。Sauerkirsche はあまり売っているのは見たことがないのですが、Süßkirsche より一回り小さい「スミノミザクラ」の実なのだそうです。(酸果桜桃。トルコあたり原産の桜の一種だそうです)

今年の春、森に散歩に行ったとき、途中で桜の木を見つけました。



ずらっと並ぶ桜の木。花が咲いたらすごく綺麗でしょうね。



花が終わって、柔らかい緑の葉っぱがたくさん茂っています。その葉っぱの間から、まだ緑のサクランボが見えています。(これが5月上旬。)



今年、市場で山盛りのサクランボを見たとき、「あの時、まだ緑であんな小さかった子たちが、こんな立派なサクランボになって...！」と感慨深いものがありました。☺もし、初夏のドイツを訪れる機会があれば、是非 Kirsche など旬の果物を食べてみてくださいね。



そして Kirsche の後の市場の主役は、ドイツで人気 No.1 の、このキノコ。Pufferlinge (ピッファーリング：アンズタケ) です。発音とつづりは非常に難しいですが、卵と合わせたリ、クリームで煮込んだりして食べると、香り高く、独特の菌触りがおいしいキノコです。(こちらは是非レストランでお試ください！)

春～初夏のドイツ。市場の主役たちのご紹介でした！

日本発ドイツ便り ~Kirsche~ von Eriko T. am 14/08/11